

明治八年
大阪
錦画
新聞
第 四 号

東京神田小川町辺の大五郎八と云ふもの
 其房を其方に雅子一人有る或大の娘
 おきと女心をしりおんを去ておきとをいれんを
 知し様子をおん見たり夫のいふや私此子と
 連て別より生涯をめぐりておまはる作と
 よびて生中よおとちりん萬事深
 切におきと向ひ婚礼の料理方を待
 女島仲人役も敵も兼ねたおまはる
 と身とせしと住居を外に建てておまはる
 感心おまはる
 又思おまはるは是を耻ともれおまはる



明治八年 大阪錦画新聞4号 文庫10-8064-4

